

JconsoleでのCVP VXMLサーバのメモリ問題のトラブルシューティング

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[Jconsole ユーティリティ](#)

概要

このドキュメントでは、Java コンソール (jconsole) ツールを使用して、Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP) メモリ リークの問題をトラブルシューティングする方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP)
- Java コンソール ユーティリティ

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、CVPバージョン12.5に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

Jconsole ユーティリティ

コールサーバ、VXMLサーバのメモリリーク、またはパフォーマンス関連の問題のトラブルシューティングを行うには、jconsoleユーティリティでJavaヒープダンプトレースを起動する必要があります。これは通常、Windowsイベントビューア、タスクマネージャ、および/または perfmonログツールを使用して、リソースの問題をサーバ内の特定のサービスに絞り込んだ後に行われます。ユーティリティ ダンプ ヒープは低レベルトレース ファイルであり、CVPトラブルシューティングレベルに加えてこれを起動することをお勧めします。

JconsoleはデフォルトでCVPサーバのパスC:\Cisco\CVP\jre\binにあります。ポートの詳細は、各

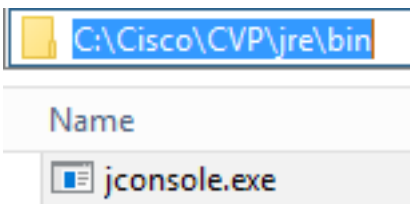
CVPサーバのC:\Cisco\CVP\confにあるjmx_callserver.conf、jmx_vxml.conf、jmx_oamp.conf、およびjmx_wsm.confのコンフィギュレーションファイルでデフォルトで設定されています。

- コール サーバ JMX ポート 2098
- VXML サーバ JMX ポート 9696
- OAMP サーバ JMX ポート 10001
- WSM JMXポート2099

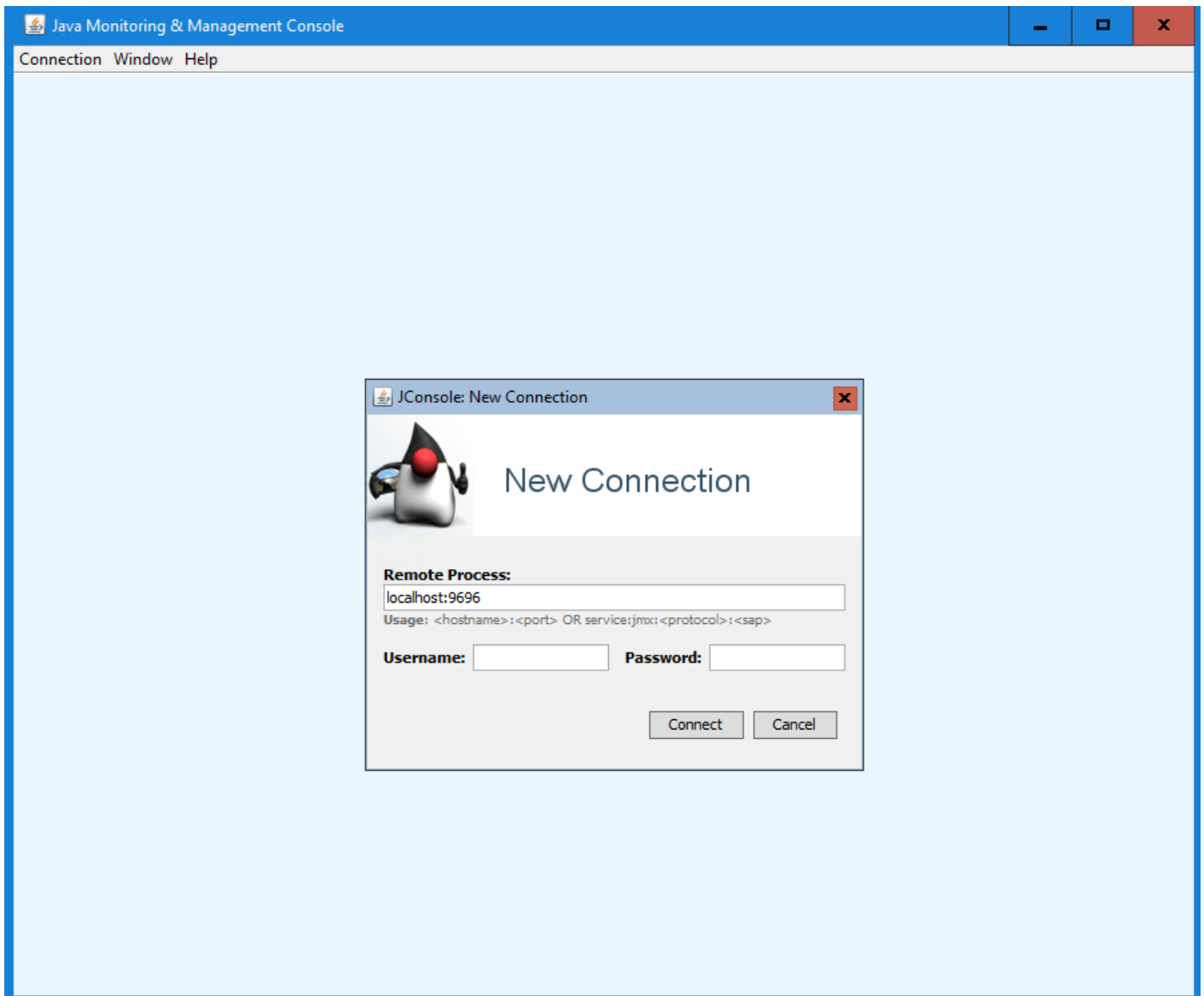
<pre>jmx_callserver.conf - Notepad File Edit Format View Help com.sun.management.jmxremote.ssl.need.client.auth = false com.sun.management.jmxremote.authenticate = false com.sun.management.jmxremote.port = 2098 com.sun.management.jmxremote.ssl = false #com.sun.management.jmxremote.ssl.config.file= com.sun.management.jmxremote.rmi.port = 2097</pre>	<pre>jmx_vxml.conf - Notepad File Edit Format View Help com.sun.management.jmxremote.ssl.need.client.auth = false com.sun.management.jmxremote.authenticate = false com.sun.management.jmxremote.port = 9696 com.sun.management.jmxremote.ssl = false #com.sun.management.jmxremote.ssl.config.file= com.sun.management.jmxremote.rmi.port = 9697</pre>
<pre>jmx_oamp.conf - Notepad File Edit Format View Help com.sun.management.jmxremote.ssl.need.client.auth = false com.sun.management.jmxremote.authenticate = false com.sun.management.jmxremote.port = 10001 com.sun.management.jmxremote.ssl = false #com.sun.management.jmxremote.ssl.config.file= com.sun.management.jmxremote.rmi.port = 10000</pre>	<pre>jmx_wsm.conf - Notepad File Edit Format View Help com.sun.management.jmxremote.ssl.need.client.auth = false com.sun.management.jmxremote.authenticate = false com.sun.management.jmxremote.port = 2099 com.sun.management.jmxremote.ssl = false #com.sun.management.jmxremote.ssl.config.file= com.sun.management.jmxremote.rmi.port = 3000</pre>

次の手順で説明するように、Jconsoleユーティリティを実行できます。

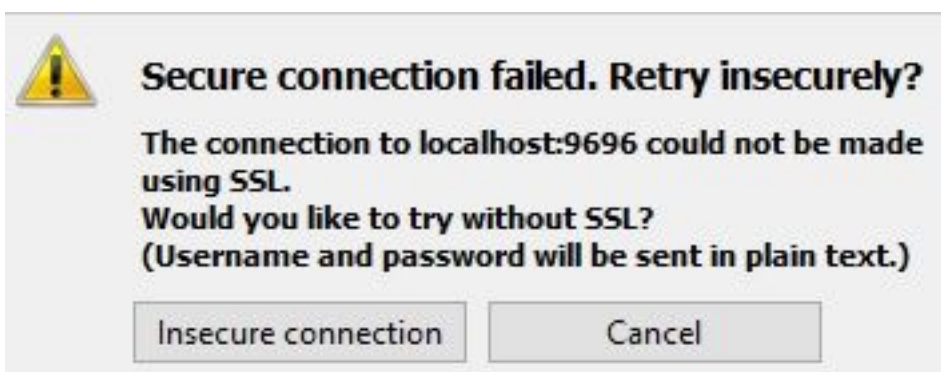
ステップ1:%CVP_HOME%/CVP/jre/bin/jconsole.exeに移動し、jconsole.exeをダブルクリックします。



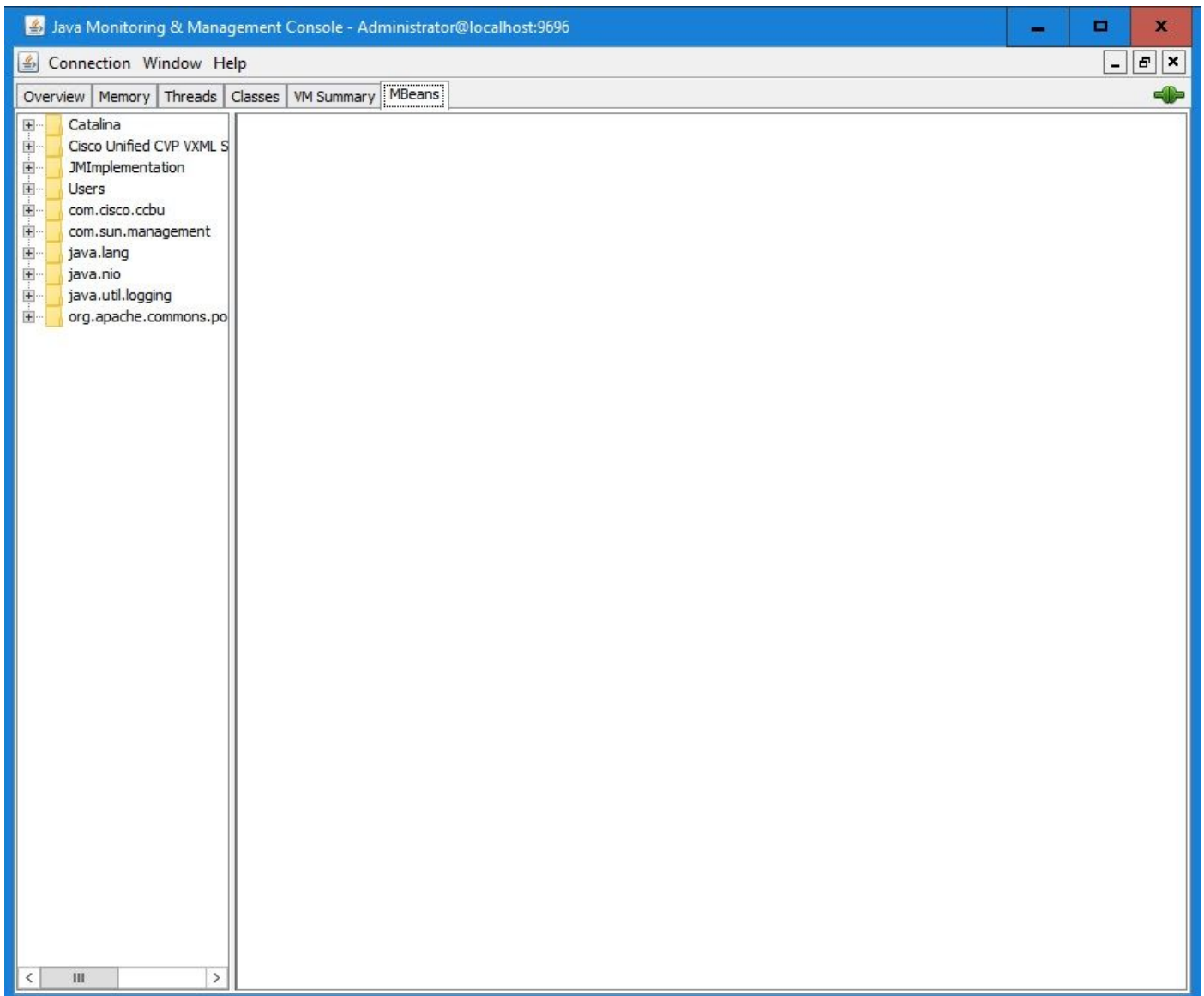
ステップ2:localhostに接続し、接続先のCVPコンポーネントのポート番号を指定します。たとえば、CVP VXMLサーバではJMXポート9696を使用します。[ユーザ名]と[パスワード]フィールドは空白のままにしてください。[Connect] をクリックします。



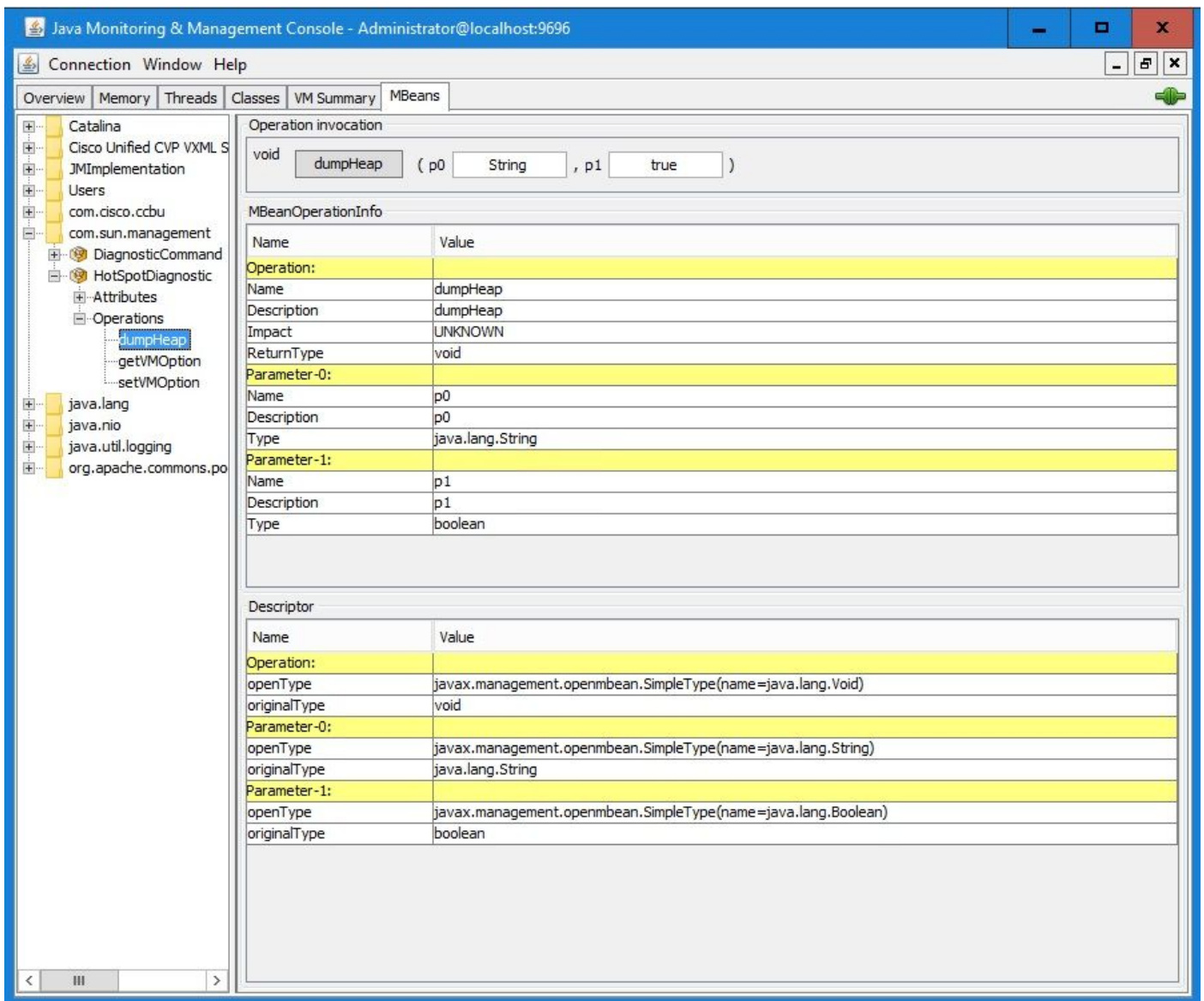
ステップ3:[Insecure connection]をクリックします。



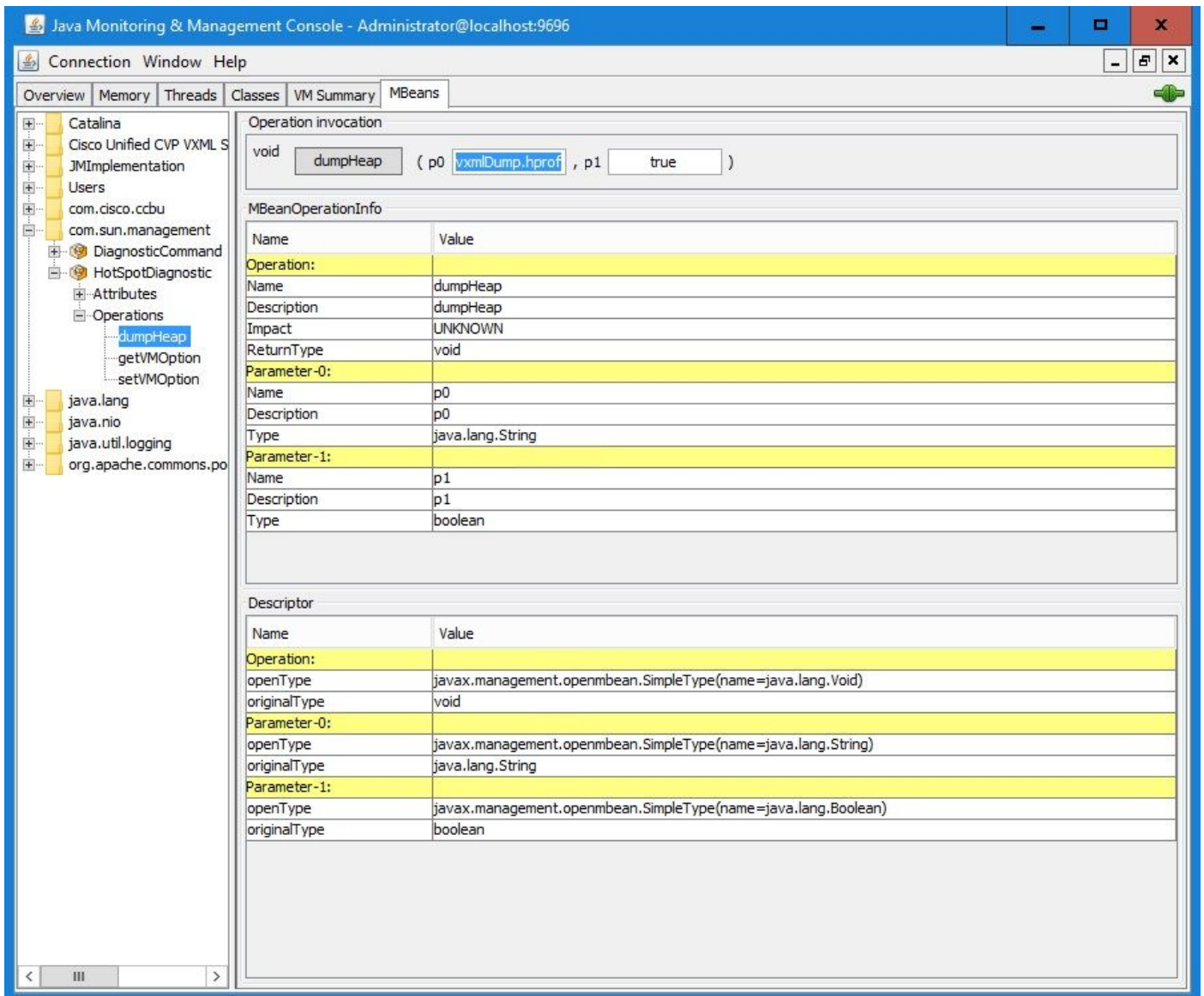
ステップ4:[MBeans]タブを選択します。



ステップ5: `com.sun.management > HotSpotDiagnostic > Operations`の順に展開し、`dumpHeap`をクリックします。

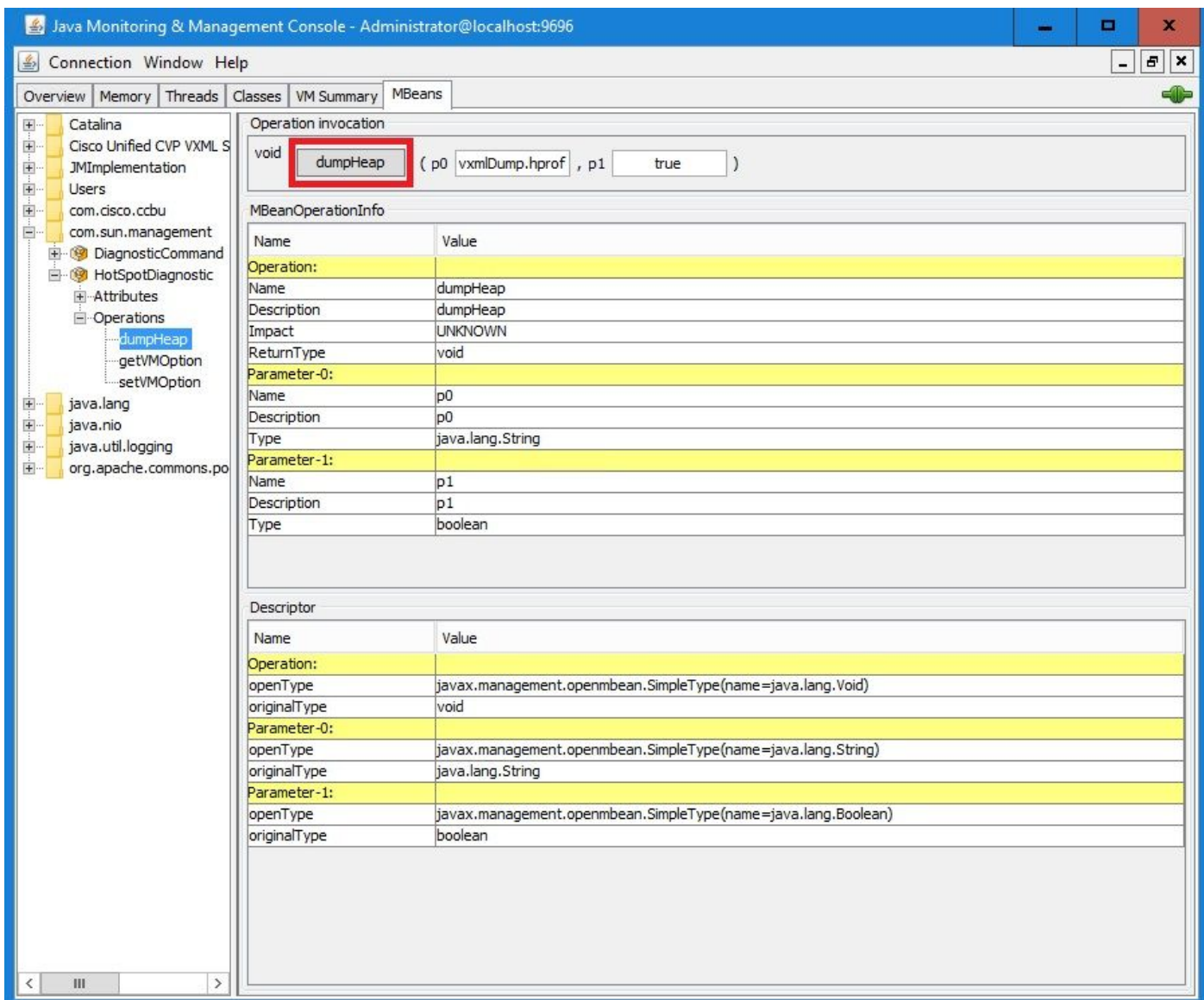


ステップ6:p0で、拡張子に.hprofを持つダンプのファイル名を入力します(例 : vxmlDump.hprof)。
[p1] は [true] のままにします。

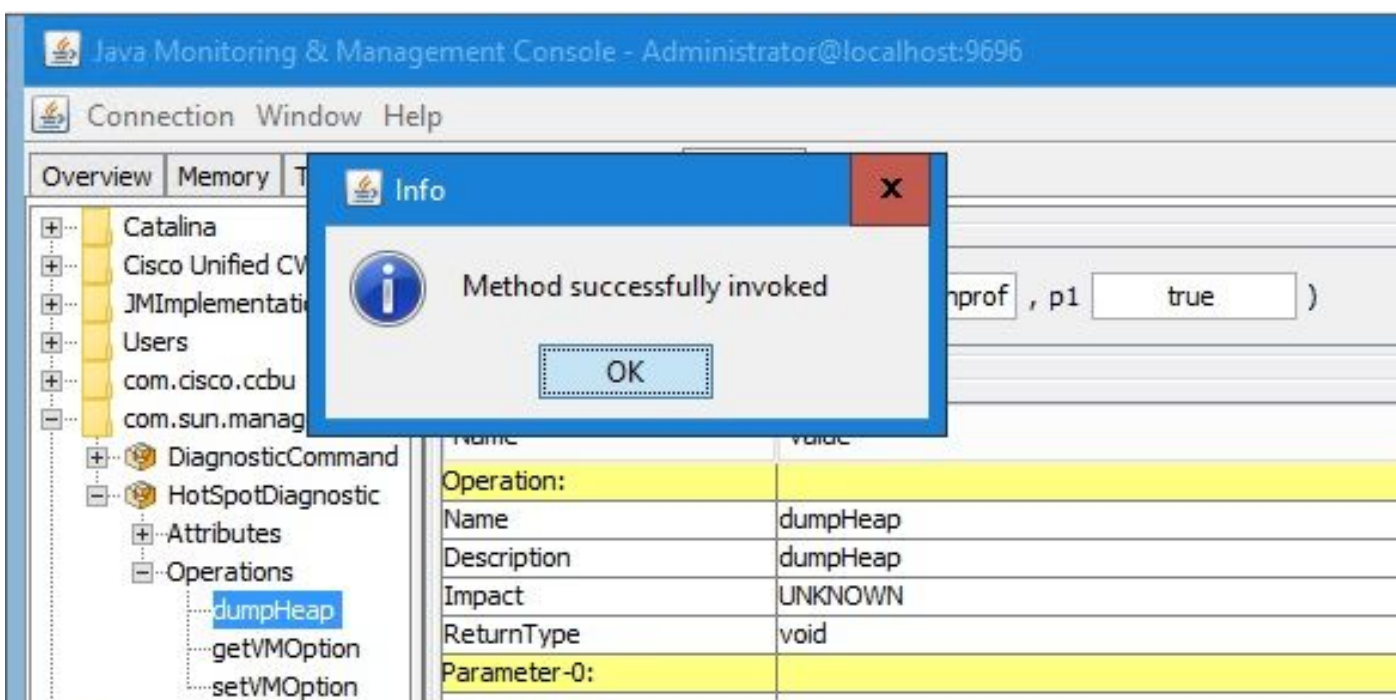


注：シスコでは、業務時間内にヒープをダンプすることは推奨しません。これは、VXMLサーバーサービスがプロセス中に一時的にフリーズする可能性があるためです。シスコでは、営業時間外にこのアクティビティを実行することを推奨します。

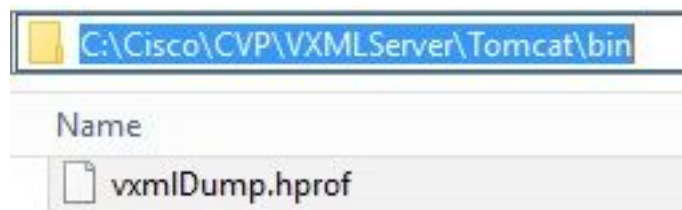
ステップ7:[dumpHeap]をクリックします。



ステップ8: 「Method successfully invoked」というメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。



ステップ9：生成されたダンプファイルを収集します。VXMLサーバダンプのデフォルトパスはC:\Cisco\CVP\VXMLServer\Tomcat\binです。



注：このツールは、VXMLサーバのメモリリークの問題のトラブルシューティングを目的としています。リークを引き起こすアプリケーションが特定されたら、このツールを有効にし、必要な情報を収集して、問題が再現された後で無効にする必要があります。Jconsoleはモニタツールとして設計されていないため、無期限に有効にしないでください。